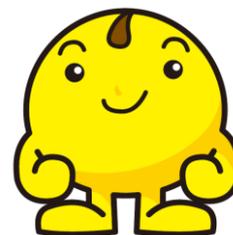


大豆の集荷・販売状況について



1. 29年産の作付・集荷の状況

(1) 全国

ア. 作付面積は、11万8千haと、ほぼ前年並となっています。

イ. 28年産で大幅な減収となった北海道、九州が平年作となったことから、集荷見込み数量は、18万6千トン（前年差+6千トン）となっています。

【表1. 29年産大豆の地区別集荷見込数量】

(単位:トン、ha)

区分	平成29年産(A)		28年産(B)		対比差(A-B)	
	面積	集荷見込	面積	集荷実績	面積	集荷量
北海道	31,264	69,997	30,690	57,632	+574	+12,365
東日本	41,093	54,619	41,261	61,780	▲168	▲7,161
西日本	26,223	30,021	26,244	33,070	▲21	▲3,049
九州	19,743	30,959	20,146	27,267	▲403	+3,692
全国	118,323	185,597	118,341	179,749	▲18	+5,848

※ 集荷見込み量調査(12月末日現在)より。

※ ラウンドの関係で合計値が合わない場合がある。

(2) 本 県

ア. 作付面積

(ア) 県全体の作付面積は、4,510haと、ほぼ前年並となっています。

(イ) 品種別には、エンレイから里のほほえみへの品種切替をすすめており、里のほほえみの作付面積は、全体の27%となっています。

イ. 集荷数量

(ア) 県全体の集荷見込数量は7,969トン(前年8,749トン)、単収は184kg(前年195kg)、1～2等級比率は24%(前年14%)となっています。

(イ) エンレイの集荷見込数量は5,726トン、単収は182kgと見込まれます。1～2等比率は23%となっており、「しわ粒」が主な格落ち要因となっています。

(ウ) 里のほほえみの集荷見込数量は2,025トン、単収は191kgと見込まれます。1～2等比率は32%となっており、「しわ粒」が主な格落ち要因となっています。

【表2. 28～30年産銘柄別生産計画(作付面積)】

(単位:ha)

	28年産	29年産	30年産
里のほほえみ	373(8%)	1,202(27%)	2,692(62%)
エンレイ	3,892(87%)	3,164(70%)	1,629(38%)
その他	210(5%)	144(3%)	22(1%)
合計	4,475	4,510	4,343

※ 28・29年産は出荷契約実績。30年産は、種子生産計画にもとづく。

※ ()は、作付構成比率。

【表3. 29年産本県産大豆の品種別集荷見込数量・検査状況】

(単位:トン、kg/10a)

品種	集荷見込	単収	普通大豆				特定加工	規格外
			1等	2等	(1・2等計)	3等		
エンレイ	5,726	182	1.7%	21.2%	22.9%	51.3%	25.0%	0.8%
里のほほえみ	2,025	191	5.8%	26.5%	32.3%	43.9%	21.7%	2.1%
その他	218	190	0.7%	14.2%	14.9%	42.5%	39.8%	2.9%
合計	7,969	184	2.5%	21.6%	24.1%	48.8%	25.8%	1.3%

2. 29年産の販売について

(1) 需給環境

ア. 29年産の集荷見込は、18万6千トンとなっており、前年度繰越を合わせた総供給量は25万5千トンと推定され、大幅な供給過剰となることが想定されます。

イ. このため、30年産以降への繰越を適正水準に圧縮すべく、早い段階から輸入大豆の国産切替等を推進しています。

(2) 入札取引

ア. 入札取引については、集荷数量の3分の1が義務上場となっており、全国で6万2千トン、本県で2千6百トン程度を計画しています。

イ. 第1回入札(12月20日実施)は、問屋が28年産在庫を抱えていることから、相場を探るための応札が中心となり、上場数量3,883トンに対し、落札は921トンにとどまりました。平均落札価格も8,473円/60kgと、前年同期を335円/60kg下回りました。

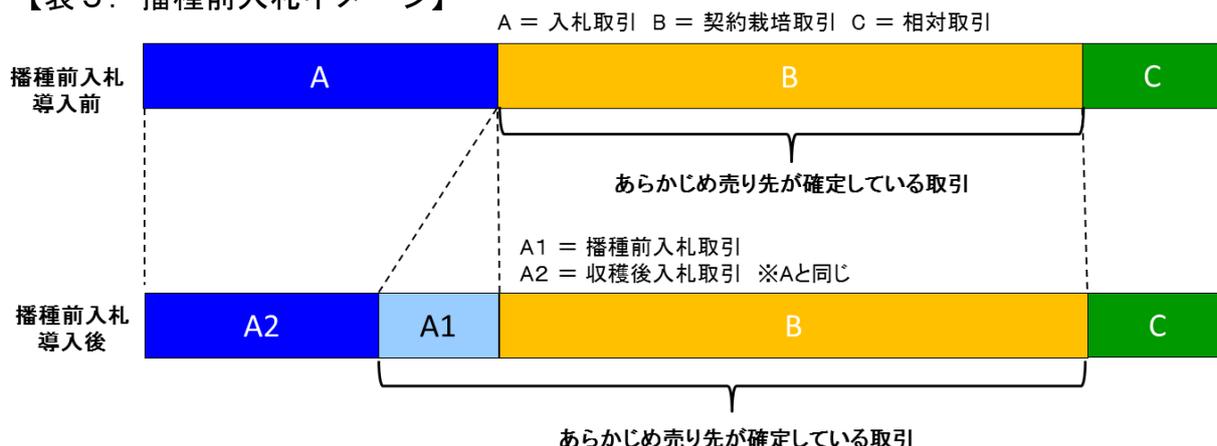
ウ. 今後は、毎月1~2回のペースで、7月頃までに10回程度実施される予定となっています。

エ. なお、価格の安定と事前契約の拡大をはかるため、30年産から播種前入札を本格導入(4月)することとしており、本県も上場する予定となっています。

【表4. 平成29年産大豆 第1回入札結果】

	銘柄	上場数量 (トン)	落札数量 (トン)	落札率	落札価格 (円/60kg、 税別)	前年差	
						落札率	落札価格 (円/60kg、税別)
全国	—	3,883	921	24%	8,473	▲17%	▲335
新潟	エンレイ	356	99	28%	8,420	▲9%	▲452
	里のほほえみ	386	30	8%	8,260	—	—
	合計	743	129	17%	8,383	▲12%	▲489

【表5. 播種前入札イメージ】



3. 30年産の生産に向けて

国産大豆の需給は緩和傾向にありますが、本県産大豆については、実需者から一定の評価を受けており、安定供給を強く求められています。

30年産も引き続き単収および品質の向上を目指し、需要の維持・拡大をはかりま
しょう。

(米穀部 総合対策課)